

2022年5月19日

報道関係各位

株式会社OKB総研

## 第2回「新型コロナウイルスによる就職活動・就業意識への影響」調査報告

OKBグループのシンクタンク(株)OKB総研(岐阜県大垣市郭町2-25 社長 青木義実)は、標題の調査結果を取りまとめましたのでご案内します。当社では、OKB大垣共立銀行主催の新入社員研修会の受講者を対象に、「新入社員の意識調査」を毎年実施しています。

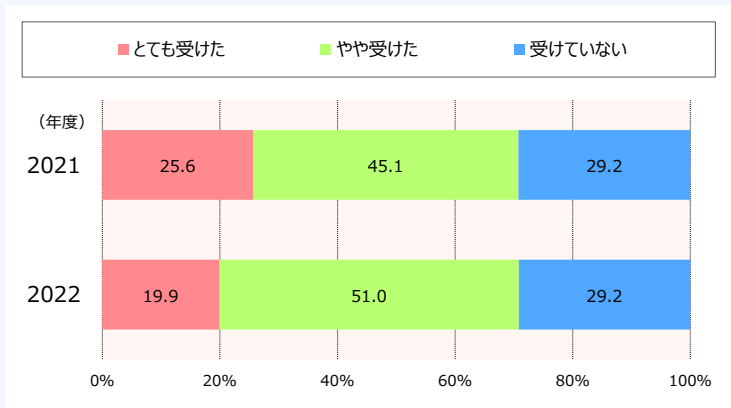
今回は、時事調査として昨年に引き続き「新型コロナウイルスによる就職活動・就業意識への影響」について調査いたしました。

### 〈調査結果のポイント〉

#### ■ 就活でコロナの影響を受けたとの回答が7割超と、前回から大きな変化見られず

「就職活動において新型コロナの影響を受けましたか」と尋ねたところ、「とても受けた」が19.9%、「やや受けた」が51.0%、合わせて70.9%の新入社員が就職活動で新型コロナの影響を受けたと回答した。前回調査(2021年度、70.7%)と比べると大きな変化は見られなかった。

#### 就職活動への新型コロナの影響



#### コメント

##### オンライン会社説明会

- ・気軽に説明会を受けることができた
- ・実際に訪れにくい場所にある企業の話がたくさん聞けるようになった

##### オンライン面接

- ・自己PRを伝えるにくい
- ・会社の雰囲気分かりづらかった

##### 募集枠

- ・募集数が例年と比べてとても少なく就職先をあまり選べない状態だった
- ・新卒採用を行っていない企業もあった

##### 企業情報の収集

- ・企業見学に行けない
- ・インターンシップがなくなった

#### ■ 業種選択・職種選択で約5割が影響を受けたと回答

#### ■ 「企業の対策・影響を意識」が約6割で上位、女性の地元志向が強まる

#### ■ 自分や家族の収入に対する不安が6割超

#### ■ およそ半数が「在宅勤務」・「フレックスタイム」・「短時間勤務制度」を利用したいと回答

※調査結果詳細については次頁以降をご参照下さい。

資料配布場所：大垣市政経済記者クラブ、名古屋金融記者クラブ

【本件に関するお問い合わせ先：(株)OKB総研 調査部 梅木 風香 Tel.0584-74-2615】

## 調査の概要

調査対象	岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県所在の企業・団体の新入社員
調査期間	2022年3月28日～4月13日
調査方法	OKB大垣共立銀行主催の新入社員研修会（WEB,集合型）の受講者(731人)に無記名方式で実施
有効回答者数	367人(有効回答率 50.2%)
回答者属性	下表の通り

		全体	男性	女性
有効回答者数		367名	178名	189名
平均年齢		21.1歳	21.0歳	21.1歳
最終学歴	高校卒業	31.6%	31.5%	31.7%
	専門学校卒業	8.2%	5.1%	11.1%
	短期大学卒業	3.5%	2.2%	4.8%
	4年制大学卒業	51.5%	53.9%	49.2%
	その他	5.2%	7.3%	3.2%
居住地	岐阜県	55.9%	62.4%	49.7%
	愛知県	31.6%	25.8%	37.0%
	三重県	1.4%	2.2%	0.5%
	滋賀県	5.2%	6.2%	4.2%
	その他	6.0%	3.4%	8.5%
業種	建設業	8.4%	11.2%	5.8%
	製造業	42.5%	43.8%	41.3%
	卸売業、小売業	15.8%	15.2%	16.4%
	情報通信業	6.5%	6.7%	6.3%
	サービス業	6.3%	7.3%	5.3%
	その他	7.4%	4.5%	10.1%

(注) 端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある（以下同じ）。

## 第2回 新型コロナウイルスによる就職活動・就業意識への影響

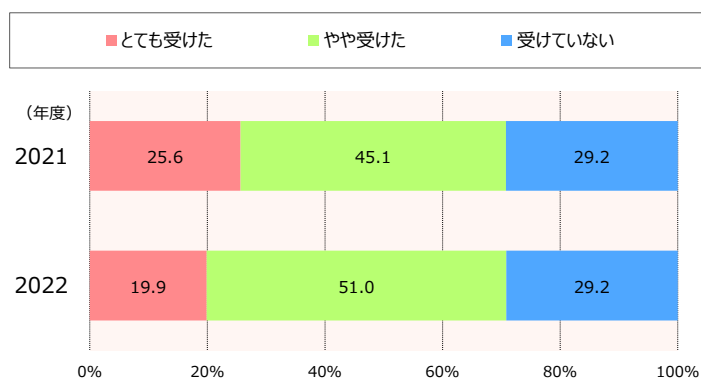
### ■ 就職活動への新型コロナの影響

#### 就活でコロナの影響を受けたとの回答が7割超と、前回から大きな変化見られず

「就職活動において新型コロナの影響を受けましたか」と尋ねたところ、「とても受けた」が19.9%、「やや受けた」が51.0%、合わせて70.9%の新入社員が就職活動において新型コロナの影響を受けたと回答した。前回調査（2021年度）と比べ「とても受けた」が減少し、「やや受けた」が増加したものの、全体としては大きな変化は見られなかった。

自由意見では、会社説明会や面接などのオンライン化に関するコメントが多く寄せられた。オンライン会社説明会については「気軽に受けることができた」「訪れにくい場所にある企業の話がたくさん聞けた」という好意的な意見が多かった。一方、オンライン面接については「自己PRを伝えにくい」「会社の雰囲気や社員の人柄がつかみづらい」といった声が目立ち、オンライン上での会社とのやりとりに苦戦した様子が見られた。

図表1 就職活動への新型コロナの影響



#### コメント

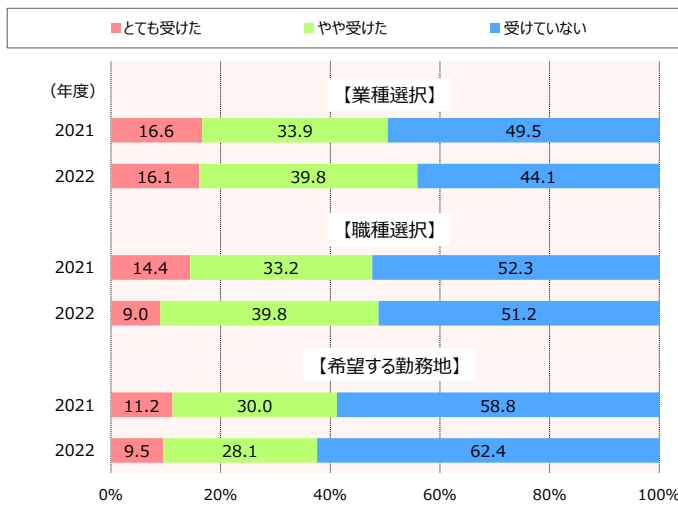
<b>オンライン会社説明会</b>
・気軽に説明会を受けることができた ・実際に訪れにくい場所にある企業の話がたくさん聞けるようになった ・地方に住んでいるため、ありがたかった
<b>オンライン面接</b>
・オンライン面接の練習をした ・自己PRを伝えにくい ・会社の雰囲気が分かりづらかった
<b>募集枠</b>
・募集数が例年と比べてとても少なく就職先をあまり選べない状態だった ・新卒採用を行っていない企業もあった
<b>企業情報の収集</b>
・企業見学に行けない ・インターンシップがなくなった

## ■ 業種・職種の選択、希望する勤務地への影響

### 業種選択・職種選択で約5割が影響を受けたと回答

業種・職種の選択、希望する勤務地への影響について尋ねたところ、「とても受けた」「やや受けた」の合計が、業種選択では55.9%、職種選択では48.8%となった。前回と比べると、業種選択は+5.4ポイント、職種選択は+1.2ポイントと増加している。コロナ禍の影響を強く受けている業種や職種に関して「受けられなくなった」「このまま志望して良いのか不安になった」といったコメントもあり、コロナ禍が業種・職種選択に影を落としていることが見て取れる。希望する勤務地については同割合が37.6%、前回から▲3.6ポイントとなった。

図表2 業種・職種の選択、希望する勤務地への影響



### コメント

#### 業種選択

- ・航空業が受けられなくなり、新たにやりたい仕事を考えるきっかけになった
- ・希望業界の変更を行わざるをえなかった

#### 職種選択

- ・希望する職種の求人が少なかった
- ・選ぶ職種を考えるようになった
- ・接客業を志望していたが、コロナ禍で対面での接客が難しくなり、このまま志望して良いのか不安になった

#### 希望する勤務地

- ・リモートが普及し、働く場所にこだわりがなくなった
- ・集団感染を避けるため、自動車通勤ができるようになった

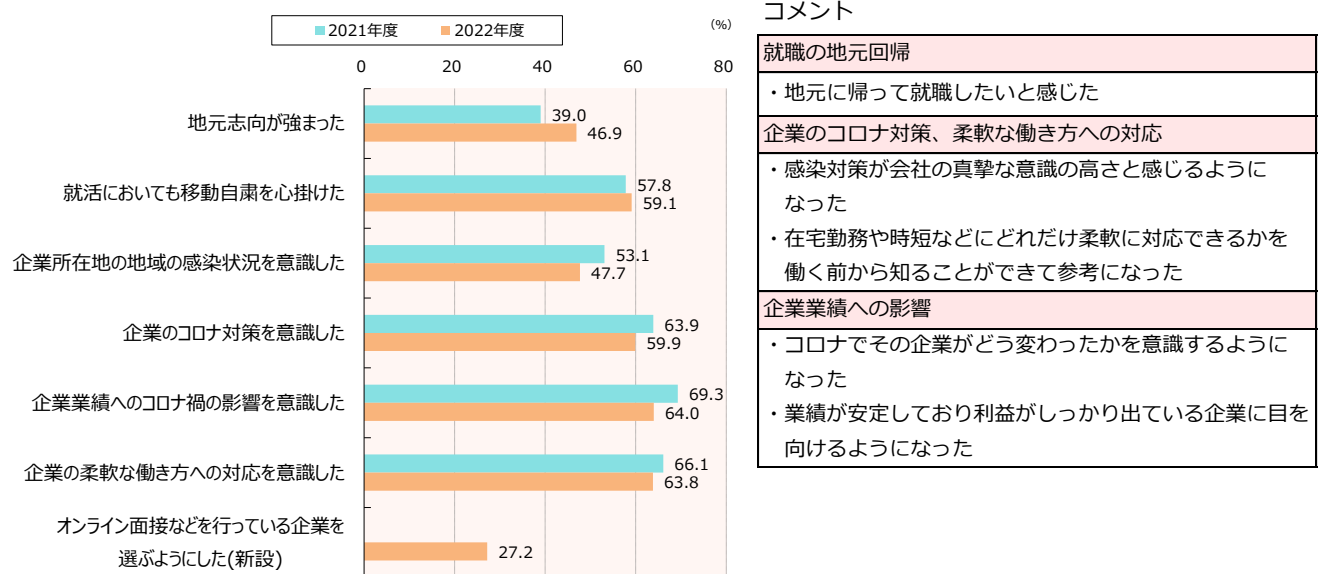
## ■ 就職活動中の意識変化

### 「企業の対策・影響を意識」が約6割で上位、女性の地元志向が強まる

「新型コロナの影響による就職活動中の意識変化」について尋ねたところ、あてはまるとの回答が最も多かったのは「企業業績へのコロナ禍の影響を意識した」（64.0%）で、次いで「企業の柔軟な働き方への対応を意識した」（63.8%）、「企業のコロナ対策を意識した」（59.9%）となった。いずれも前回から回答率は低下したものの、コメントにもあるとおり、企業の対策や影響が就職活動の1つの判断基準となったようである。

「地元志向が強まった」（46.9%）については回答率が前回から+7.9ポイントとなっている。男女別に見ると、女性が前回から+10.9ポイントと大きく伸びており、特に女性において地元志向が強まっている。

図表3 新型コロナの影響による就職活動中の意識変化



(%、%ポイント)

	全体			男性			女性		
	2021年度	2022年度	前回比	2021年度	2022年度	前回比	2021年度	2022年度	前回比
地元志向が強まった	39.0	46.9	+7.9	38.1	42.7	+4.6	39.9	50.8	+10.9
就活においても移動自粛を心掛けた	57.8	59.1	+1.3	51.8	53.4	+1.6	63.8	64.6	+0.8
企業所在地の地域の感染状況を意識した	53.1	47.7	▲ 5.4	51.1	45.5	▲ 5.6	55.1	49.7	▲ 5.4
企業のコロナ対策を意識した	63.9	59.9	▲ 4.0	60.4	56.2	▲ 4.2	67.4	63.5	▲ 3.9
企業業績へのコロナ禍の影響を意識した	69.3	64.0	▲ 5.3	69.8	60.7	▲ 9.1	68.8	67.2	▲ 1.6
企業の柔軟な働き方への対応を意識した	66.1	63.8	▲ 2.3	61.2	62.4	+1.2	71.0	65.1	▲ 5.9
オンライン面接などを行っている企業を選ぶようにした(新設)	-	27.2	-	-	29.2	-	-	25.4	-

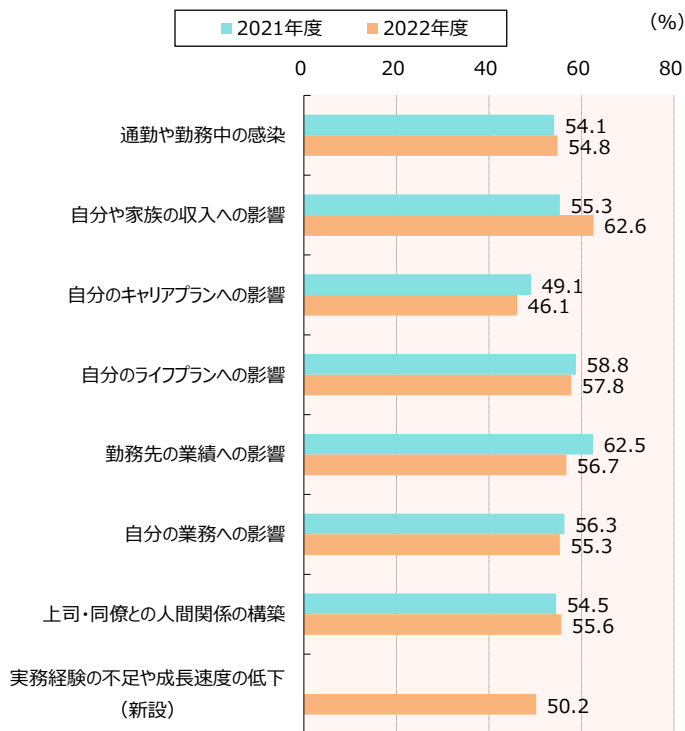
## ■ 新型コロナ感染拡大による不安

### 自分や家族の収入に対する不安が6割超

各項目について、「新型コロナ感染拡大でどの程度不安を感じていますか」と尋ねたところ、「とても感じる」「まあ感じる」を合わせた割合が最も高いのは「自分や家族の収入への影響」(62.6%)、次いで「自分のライフプランへの影響」(57.8%)、「勤務先の業績への影響」(56.7%)となった。いずれの項目も不安を感じるという回答が5~6割程度と高い。

前回と比べると、1位の「自分や家族の収入への影響」は+7.3ポイントと他の項目に比べて伸びが大きい。男女別に見ると、男性が+10.8ポイントと大きく上昇している。

図表4 新型コロナ感染拡大による不安



(%、%ポイント)

	全体			男性			女性		
	2021年度	2022年度	前回差	2021年度	2022年度	前回差	2021年度	2022年度	前回差
通勤や勤務中の感染	54.1	54.8	+0.7	48.2	51.2	+3.0	60.2	58.2	▲ 2.0
自分や家族の収入への影響	55.3	62.6	+7.3	51.0	61.8	+10.8	59.4	63.5	+4.1
自分のキャリアプランへの影響	49.1	46.1	▲ 3.0	48.9	49.4	+0.5	49.2	42.9	▲ 6.3
自分のライフプランへの影響	58.8	57.8	▲ 1.0	56.9	55.6	▲ 1.3	60.9	59.8	▲ 1.1
勤務先の業績への影響	62.5	56.7	▲ 5.8	63.3	60.1	▲ 3.2	61.6	53.4	▲ 8.2
自分の業務への影響	56.3	55.3	▲ 1.0	56.9	54.0	▲ 2.9	55.8	56.6	+0.8
上司・同僚との人間関係の構築	54.5	55.6	+1.1	51.1	56.2	+5.1	57.9	55.1	▲ 2.8
実務経験の不足や成長速度の低下 (新設)	-	50.2	-	-	52.9	-	-	47.6	-

(\*) 図表の数値は「とても感じる」「まあ感じる」の合計。

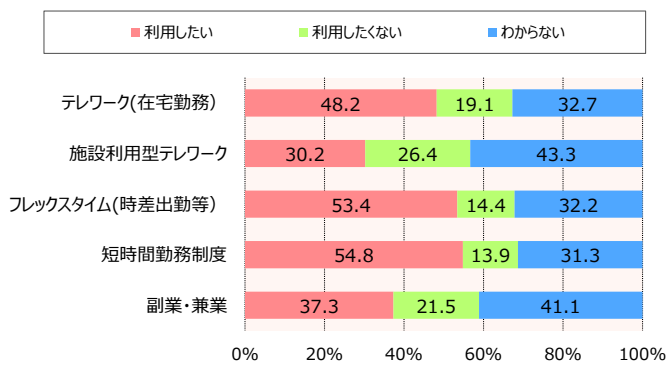
## ■ コロナ禍を契機に利用したい働き方

およそ半数が「在宅勤務」・「フレックスタイム」・「短時間勤務制度」を利用したいと回答

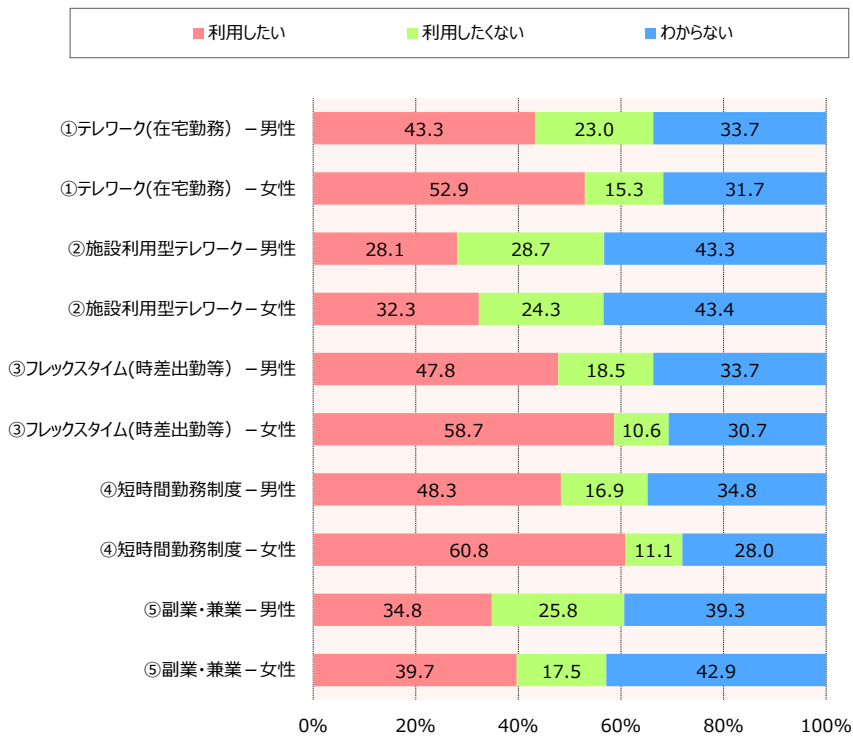
コロナ禍を契機に、それぞれの働き方を利用したいかどうか尋ねたところ、「テレワーク（在宅勤務）」「フレックスタイム（時差出勤等）」「短時間勤務制度」について約5割が「利用したい」と回答した。理由としては、「人との過度な関わりによるコロナ感染を防ぐため」「取り入れた方が業務効率も生活クオリティーも上がる」「時代や情勢に合わせた働き方がしたい」といった声が聞かれた。

男女別に見ると、どの働き方も女性の方が男性よりも回答率が高く、女性は多様な働き方について利用意向が強いことが分かる。

図表5 コロナ禍を契機に利用したい働き方（全体）



## コロナ禍を契機に利用したい働き方（男女別）



以上